

## 「養護教諭が行う個別の保健指導」

「令和元年度第1回パワーアップ研修会」を、8月5日（月）午後2時より京都市生涯学習総合センターにおいて開催いたしました。参加者は64名でした。小学校、中学校の3名の先生方から、平成29・30年度「養護教諭が行う個別の保健指導」公募研究委員会で研究し実践された内容をお聞きしました。その後のグループ交流では、個別の保健指導を計画する際に対象者を把握する方法や、個別の保健指導を行う中での困りや悩みについて交流しました。

### ＜実践発表＞

#### 1. 京都市立下鳥羽小学校 養護教諭 中澤 紗英子 先生



##### ○乗り物酔いを予防するために

- ・昨年度の宿泊行事での実態から健康課題を把握し、個別の保健指導計画を立て、乗り物酔いのある児童・保護者を対象に個別の保健指導を行った。

##### ○個別の保健指導を実施して

- ・朝読書の時間を利用し、少人数でのグループ指導を実施した。乗り物酔いを不安に思っている児童も多く、ポケット冊子の資料を用いて、予防方法を中心に指導を行った。
- ・学級担任が、児童にバスの座席や空気調節について声かけを行うなど、学級担任の意識の向上が見られた。
- ・宿泊行事後、保健指導の振り返りを行った。「子どもから子どもへ学んだことを伝える」ことで子どもの学びをより深めることができると感じ、次年度への課題とした。

#### 2. 京都市立朱雀中学校 養護教諭 福井 絢野 先生



##### ○月経痛の緩和に向けて

- ・保健室への来室、保護者からの相談、宿泊活動への不安などの実態から、月経に関する保健指導が必要であると感じた。
- ・「月経痛が起こる仕組み」「月経痛の緩和方法」を指導することで、生徒が自分の体と向き合うきっかけになると考えた。

○次につながる・次に活かす

- 指導資料は生徒や保護者に、わかりやすく情報提供するために役立った。指導計画や資料を用いることで、養護教諭自身も落ち着いて指導ができた。
- 個別の保健指導は生徒だけでなく、養護教諭にとっても次につながる・次に活かすためのものである。併せて振り返りの必要性を改めて感じた。



### 3. 京都市立葵小学校 養護教諭 中川 直美 先生

○来室者の対応を通して

- 養護教諭は、けがが発生した時に、状況の確認・情報の収集・応急手当てを冷静に判断することが必要である。頭部打撲での来室時に作成した指導資料を用い、初期対応を確実にを行い、総合的に判断をした。
- けがをした児童に指導資料を用い、頭部打撲時に注意することなどの個別の保健指導を実施した。また、けがの再発防止に向けて学級担任から学級指導を行った。
- 安心される保健室経営を目指し、養護教諭自身もアンテナを広げスキルアップが必要である。

#### <研修や交流の様子>



#### <参加者からの感想>

- 個別の保健指導は様々な場面で指導の機会を設けることができるとわかりました。養護教諭だけでなく、他の教職員と連携をとることで、情報共有ができ、子どもたちの指導に活かすことができると思います。